

令和8年度 自己評価計画書

							石川県立宝達高等学校		
重点目標	具体的取組		主担当	現 状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	備考	
1	主体的・継続的に学習に取り組む態度を育み、学力の向上を図る。	①	授業に臨むときの基本的な姿勢や規律ある学習態度の定着を図る。	[教務課] 進路指導課 各教科 各学年 若手研修 コーディネーター	「学びの4か条」を全教室に掲示するなど、学習規律の指導に努めている。慣れによる気の緩みや集中力の欠如が起こらないよう指導に努めている。	【成果指標】 学習規律を守っている生徒の割合が100%になる。	「学習規律(学びの4か条)を守っている」と答えた生徒の割合が A:100% B:95% 以上 C:90% 以上 D:90% 未満	C、Dの場合、指導法の改善に努める。	7月・12月に調査(生徒アンケート)
		②	Chromebook等を利用して、生徒の実状(習熟度等)や進路希望に応じた学習課題を提示する。		授業外の学習時間は多くはない。個に応じた学習が必要であり、教科の学習はもとより、進路学習や読書も含め、自主的な取り組みとなるよう工夫が必要である。	【成果指標】 授業以外の学習時間(進路学習、読書を含む)を60分以上確保している。	授業外学習時間(進路学習、読書を含む)が60分以上の生徒の割合が A:70% 以上 B:60% 以上 C:50% 以上 D:50% 未満	C、Dの場合、取組について検討する。	7月・12月に調査(生徒アンケート)
		③	各種研修や互見授業、授業参観等を通して、教員の授業実践力を高め、生徒の思考力・判断力・表現力の向上を図る。		知識を活用する力やコミュニケーション能力を育むために、協働学習等の場面や個に応じた形での場を設定するように努めている。	【努力指標】 教員の授業設計力と授業力の向上を図る。	「生徒同士の学び合いや発表等の機会を積極的に設けている」と評価する教員の割合が A:90% 以上 B:80% 以上 C:70% 以上 D:70% 未満	C、Dの場合、取組について検討する。	7月・12月に調査(教員アンケート)
					個に応じた細やかな授業の進め方や教材の工夫に努めている。授業で得た知識を用い、アウトプット活動につなげていく必要がある。	【満足度指標】 生徒が授業における指示や説明がわかりやすいと感じる。	「授業がわかりやすい」と答えた生徒の割合が A:90% 以上 B:85% 以上 C:80% 以上 D:80% 未満	C、Dの場合、取組について検討する。	7月・12月に調査(生徒アンケート)

重点目標		具体的取組		主担当	現 状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	備考
2	キャリア教育の充実及び個に応じた進路指導の充実により、進路実現を図る。	①	段階的に上級学校や関係機関・地元企業との連携を通して、生徒の進路意識を高めて早期に進路目標を設定することができるよう支援する。	[進路指導課] 各学年	各種進路行事の事前指導及び事後の振り返りを丁寧に行い、進路意識の高揚を図っている。また、最新の進路情報の提供に努めている。	【満足度指標】 各学年のキャリア学習が、上級学校理解・職業理解などを通じて生徒の進路選択に役立っている。	「進路講話、各種講座、企業見学会等が進路選択に役立っている」と答えた生徒の割合が A：95% 以上 B：85% 以上 C：75% 以上 D：75% 未満	C、Dの場合、取組について検討する。	7月・12月に調査（生徒アンケート）
		②	進路ガイダンスとカウンセリングを充実させ、生徒個々の状況を把握し、支援する。また、生徒の希望・適性・能力に合致した進路指導に努める。		生徒の希望や活動成果に基づいて進路指導を行っている。特に進路が決められない生徒に対し、段階的な指導を実施している。	【成果指標】 就職・進学を希望する生徒の進路実現率が100%になる。	就職・進学を希望する生徒の進路実現率 A：100% B：95% 以上 C：90% 以上 D：90% 未満	C、Dの場合、指導計画・指導法の改善に努める。	12月・年度末に集計
3	自主自律の精神や自他を尊重する心を持った、心身ともに健康な生徒を育成する。	①	学校内外の日常生活の場面で、TPOをわきまえた判断と言動ができるように指導を行い、社会の一員としての自覚を促す。	[生徒課] 生徒会係 生徒指導係	挨拶を自主的・積極的にできない生徒が見られる。挨拶運動を生徒会活動に位置づけ、生徒が主体的に取り組むことにより、学校全体のマナー向上の気運を高める必要がある。	【満足度指標】 規範意識を持って、自発的に行動することができたと考えている。	「自分から進んで、他の生徒や教職員、来客者等に挨拶をしている」と答えた生徒の割合が A：90% 以上 B：85% 以上 C：80% 以上 D：75% 未満	C、Dの場合取組について検討する。	7月・12月に調査（生徒アンケート）
		②	基本的な生活習慣確立のために年間4回「生活実態調査」を実施し、生徒一人一人の生活状況やいじめ等の悩みを把握し指導に活かす。	[保健相談課] 各学年	生活実態調査の結果を職員会議や学校保健委員会等で共有し、全教職員があらゆる機会をとらえて生活改善指導やいじめ防止等を行っている。保護者懇談や生徒面談で積極的に活用する必要がある。	【努力指標】 生活実態調査の結果を生活指導に活かし、生徒の生活改善やいじめ防止等につなげる。	「生活実態調査の結果を指導に活かし、生活改善や問題の未然防止・早期発見につなげている」と評価する教員の割合が A：90% 以上 B：85% 以上 C：80% 以上 D：80% 未満	C、Dの場合取組について検討する。	7月・12月に調査（教員アンケート）
		③	日常的に美化活動や環境衛生に努め、奉仕の心やものを大切にすることを養う。美化コンクールを通じて、他と協力し合うことの意義を確認し、自主性を育む。		清掃活動には多くの生徒が真面目に取り組んでいる。「清掃の時間」以外でも自主的に環境整備に取り組む意識を高める必要がある。	【成果指標】 身のまわりの整理整頓等、自主的に環境整備に努める生徒が増加する。	「身のまわりの整理整頓を自主的に実践し、環境整備に努めている」と答えた生徒の割合が A：90% 以上 B：85% 以上 C：80% 以上 D：80% 未満	C、Dの場合取組について検討する。	7月・12月に調査（生徒アンケート）

石川県立宝達高等学校									
重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	備考		
4	地域との連携・協働の取組を充実させ、地域に信頼される学校づくりを推進する。	①	地域イベントやボランティア活動等に積極的に参加し、地域貢献意識を高めるとともに、自己の在り方・生き方を深く考える機会とする。	[生徒課] 生徒会係 各学年	地域活動の意義を理解し、社会の一員として貢献する意識が低い。ボランティア活動や地域と連携した取り組み等、積極的に活動できる機会を増やす必要がある。	【満足度指標】 地域活動に参加した生徒が、地域貢献により自己有用感が高まったと実感している。	「地域に貢献する活動ができた」と答えた生徒の割合が A：90% 以上 B：80% 以上 C：70% 以上 D：70% 未満	C、Dの場合 指導のあり方を検討する。	7月・12月に調査 (生徒アンケート)
		②	地域資源を活用した活動や学習を通して地域理解を深め、探究する力を育成する。	[教務課] 総務課 進路指導課 各学年 各教科	講話や現地見学会、授業等で、地域の自然・産業・文化・歴史等について学ぶ機会を多く設けている。積極的な探究学習になるよう工夫する必要がある。	【満足度指標】 生徒が地域理解を深め、探究学習に積極的に取り組んだと考えている。	「探究活動や探究学習に積極的に取り組んだ」と答えた生徒の割合が A：90% 以上 B：80% 以上 C：70% 以上 D：70% 未満	C、Dの場合 指導のあり方を検討する。	7月・12月に調査 (生徒アンケート)
		③	ホームページや広報誌を通じて、本校の教育活動や生徒状況等の情報を発信する。	[総務課] 各学年 各課 各教科 部顧問	保護者の評価は高いが、今後も受信者の視点に立った内容になっているかを評価・検証しながら、タイムリーに情報発信をする必要がある。	【努力目標】 本校の教育活動の理解に役立つ最新の情報を提供する。	「配付物やホームページ等による情報が、教育活動の理解や生徒状況の把握に役立つ」と評価した保護者の割合が A：90% 以上 B：85% 以上 C：80% 以上 D：80% 未満	C、Dの場合 取組について検討する。	7月・12月に調査 (保護者アンケート)
5	危機管理意識を高め、緊急時にも適切に対処できる学校組織の構築に努める。	①	防災訓練等を通して、避難のしかたや自分の身を守る行動を習得し、危機管理意識を高める。	[総務課] 各学年 各課 各教科	毎年7月、11月に2回の訓練を行っている。様々な災害に応じ、意識的に避難行動を選択できる力を高める必要がある。そのため、事前・事後学習をさらに充実させる必要がある。	【努力指標】 自然災害が発生した際に適切な行動をとることができる。	「災害が起こった際に、適切な行動をとることができる」と答えた生徒の割合が A：90% 以上 B：80% 以上 C：70% 以上 D：70% 未満	C、Dの場合 指導のあり方を検討する。	7月・12月に調査 (生徒アンケート)

6	時間管理を意識しながら、組織的で効率的な働き方に努める。	①	限られた時間を意識した働き方を行う。若手教員に対するサポート体制を維持する傍ら、若手教員にも責任ある企画や運営に参加させるなど、業務の平準化を図る。	[各課主任] [学年主任] [若手研修 コーディネーター]	教職員数の減少はあるものの、協力体制の構築、若手研修の充実、OJTの活用等を通して業務改善に努めている。ゆとりを持って生徒と関わり指導する時間を大切にしよう努めている。	【努力指標】 各主任が時間管理や業務の効率化に積極的に取り組む。	業務の割り振りや効率化を図ることができた各課主任・学年主任が、 A：90% 以上 B：80% 以上 C：70% 以上 D：70% 未満	A、Bの合計が80%未満の場合、改善策を検討する。	7月・12月に調査 (教員アンケート) (各課・学年主任対象)
						【成果指標】 時間外勤務の縮減を図る。	計画的・効率的に業務を遂行することができた教員の割合が A：90% 以上 B：80% 以上 C：70% 以上 D：70% 未満	C、Dの場合は改善策を検討する。	7月・12月に調査 (教員アンケート)